

文芸 さくらがわ

俳句

〔桜川市岩瀬「萩」俳句会〕

闇に浮く白さ仄かや沙羅の花 小林 啓治
 振りむけば妻の面影月見草 萩原 勅彦
 走り梅雨見舞ひし人も吾も老ゆ 三代 みちよ
 老鶯の声すき透る無人駅 入山 ひろ子
 わが肩に蝶をあそばせ茄子植うる 渡辺 いし
 日蝕のさわぎよ朴のおくれ花 若色 寿美女
 友の墓抱かんばかり著我の花 金田 とう女
 夫の忌と気付く菖蒲湯終ひ風呂 細谷 充女
 仏法僧誰を呼ぶのか更に鳴く 永瀬 ちい
 きのうより余震遠うのき梅は実 萩原 きしの
 〔茂山俳句会〕
 麦秋や農夫也の世界懐かしむ 吉原 京子
 ふんばれるみどりこの足五月晴 君島 真理子
 熟睡児の口元ゆるむ合歓の花 鈴木 ノブ子
 捨て舟に波よせている雲の峰 田崎 信子

短歌

〔やまと早蕨歌会〕

五月晴れのどかな田園田植え終え風吹きゆく
 に玉苗ゆるる 榎戸 栄子

薬師寺の鐘のこだまも梅雨に入る 金子 弘毅
 梵鐘の余韻ものうく麦の秋 宮本 芳江
 遠蛙あしたの二合の米をとぐ 吉原 秀子
 桐の花二者択一の世に生きて 海老沢 静夫
 恙なく八十路半ばの更衣 松崎 いま
 たんぼの綿毛の風に追ひ越され 海老沢 幸子
 春愁に色はなかりて重かりし 植田 祥雲
 髪結ひし少女の項薄暑かな 今井 繁子
 露の雨コロポツクルの話など 竹林 てる
 春めきし北陸の海親不知 笠倉 陽子
 菜園に立てば杵づか若葉風 大関 くに
 退院の手が触れてゆく花水木 飯山 昭

俚謡

〔さくら俚謡会〕

小雨降るなか友等と写す尾瀬に咲く花水芭蕉
 岩瀬 きみ子
 熱い想いを灯りに変えて草の葉陰の恋ホテル
 つく志 輝美
 愛の秘め事雷消して過ぎて輝く虹の橋
 一木 みどり
 飾ることばも繕う影もなくて庶民の顔がある
 稲葉 建正
 手には届かぬ高嶺の百合を眺め楽しむ夕涼み
 田 哲人

靖国のそびえる鳥居仰ぎ見て遠く去りにし時
 を偲びぬ 木藤 とみ
 新緑のもみじ小枝を折りさして逝きし友らを
 語りつつけし 佐藤 悦子
 夕立の通りしあとの青田風 俺らの舞台と蛙
 の合唱 田中 きみ
 中庭の黄みどりの葉はしつとりと夕べの雨に
 うたれて光る 中原 すみ子
 車井戸の縄をぐいぐい手繰り上げ桶から冷た
 き水を啜りし 中島 龍子
 妻ゆへに負ひてきし罪ひとり来て秋の陽射し
 に祖の墓浄む 北条 正子
 茶摘みうた夢にききたる亡夫の声ふと目さむ
 れば外は五月雨 皆川 米子

7月23日(月)
 市長と話してみませんか?
 ～市民の日～

市民の皆様の声を行政に反映するために、市長とお話ししてみませんか。話題はなんでも結構です。皆様のご来場をお待ちしています。

- 時間 / 9時～12時・13時～16時
- 場所 / 市役所 真壁庁舎
- 問合先 / 秘書広報課 (☎58-5111・75-3111 代表)